

- *バプテスマとは「イエス・キリストを救い主として信じた者が、その信仰を神と教会の前で公に表明し、しるしとして水を用いて行う儀式」と言える。その人の心の霊的な回心(悔い改め)と新生を表わす。古い自分に死んで新しい自分にキリストとともに生きますという、生き方の方向転換である。「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあつて新しい歩みをするためです。」(ローマ6:4) また、これから教会の一員となり、枝としてともに交わりのうちに歩むことをも意味する。
- *バプテスマのヨハネのバプテスマは旧約の律法に定められた形式化したバプテスマではなく、悔い改めのしるしとしてのバプテスマであった。「バプテスマのヨハネが荒野に現れて、罪の赦しのための悔い改めのバプテスマを宣べ伝えた。そこでユダヤ全国の人々とエルサレムの全住民が彼のところへ行き、自分の罪を告白して、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けていた。」しかし、彼自身はこのバプテスマもまだ不完全であり、「聖霊のバプテスマ」が必要である認識していた。
- *「私もこの方を知りませんでした。しかし、水でバプテスマを授けさせるために私を遣わされた方が、私に言われました。『御霊がある方の上にとつて、その上にとどまられるのがあなたに見えたなら、その方こそ、聖霊によってバプテスマを授ける方である。』」(ヨハネ1:33) イエスはこのB.ヨハネからバプテスマを受けられた。全く罪も汚れもないイエスが悔い改めのバプテスマを受けるとするのは無意味であると思われる。しかし、これも父なる神のご計画の中にあつたのと、すべてにおいて人々の模範になるように自ら進んで受けられたのだらう。
- *「世の罪を取り除く神の子羊」であるイエスに聖霊が注がれたからこそ、十字架の贖いの意味がはっきりしたのである。私たちの罪を聖めるために働くのは聖霊であり、イエスの十字架と復活を信じて告白する者の中に聖霊が住まわれる。水のバプテスマを受けても聖霊体験をしなければ聖霊のバプテスマを受けたことにならない、と主張するグループがある。しかし、どういふ方法であれ、水で「父と子と聖霊の御名によって」バプテスマを受けた者は同時に聖霊のバプテスマを受けたのである。「そこでペテロは彼らに答えた。『悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。』」(使徒2:38)